

Business Report

ONO'S VIEW

第69期 第2四半期のご報告

2016年4月1日～2016年9月30日

小野薬品工業株式会社
証券コード 4528

Dedicated to Man's Fight against Disease and Pain

病気と苦痛に対する人間の闘いのために

当社は、この企業理念のもと、いまだ満たされない医療ニーズに応えるため、真に患者さんのためになる革新的な新薬の創製を目指し、挑戦を続けています。

株主の皆さまには、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
素素は格別のご支援、ご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

第69期第2四半期累計期間(2016年4月1日から2016年9月30日まで)につきましては、長期収載品が薬価改定や後発品使用促進策の浸透による影響を受けたものの、関節リウマチ治療剤「オレンシア皮下注」などの新製品が堅調に伸長するとともに、抗悪性腫瘍剤「オプジーボ点滴静注」の非小細胞肺癌への効能追加に伴い大きく伸長しました。また、オプジーボのロイヤルティ収入も大幅に増加したことから、売上は増収となりました。

利益面では、売上拡大に伴う売上原価の増加に加え、研究開発費ならびに販売費及び一般管理費もオプジーボに関わる経費増などから増加しましたが、増収の影響額が上回ったため、大幅増益となりました。

国内の医薬品市場においては、新薬創製のための研究開発費がますます増加するなか、医療費抑制に向けた後発品使用促進策、薬価制度の見直しに向けた議論が進められるなど、新薬開発型企業にとっては厳しい状況が続いています。

このような事業環境の中、当社は新薬開発型製薬企業として永続的に発展していくために、「開発パイプラインの拡充」、「海外展開の推進」に取り組むとともに、「企業基盤の強化」に努めています。



三つの経営課題に対する取り組み

開発パイプライン の拡充	持続的成長のためには、開発パイプラインを拡充し、継続的に新薬を市場に送り出すことが不可欠です。創薬においては、オープン・イノベーションを推進し、独自のかつ画期的な医薬品創製を加速しつつ、事業戦略性の高い、あるいは医療ニーズの大きい疾患に対する有望な新薬候補化合物の導入に引き続き注力していくことで、今後も継続的な新薬上市に努めます。また、臨床試験においては、新薬開発のスピードアップにも努めます。
海外展開の 推進	自社創製の新薬を世界中にお届けできるよう、海外での臨床開発を推進するとともに、海外提携企業を通じて、自社創製化合物の海外での上市を目指してグローバルな事業展開を推進しています。また、抗がん剤などのスペシャリティー製品については、海外でも自社で販売していけるようアジアから自社販売の基盤づくりを進めており、韓国、台湾では現地法人を通じて自社販売を開始しました。引き続き、海外での事業拠点を整備していきます。
企業基盤の 強化	グローバルレベルでの競争力を高めていくため、人財の育成と活性化、事業のスピードアップに努めます。また、多様性の向上に取り組み、さまざまな環境変化への対応を図ります。さらに、CSR活動については、「コーポレートガバナンス」「革新的な医薬品」「人財・人権」「環境」「公正な事業慣行」「社会」を重点領域として位置づけ、一層推進していくことで、企業基盤の強化を図っていきます。

わたしたちは、病気で苦しんでいる世界中の患者さんに、医療現場のニーズに沿った新薬を一日も早くお届けするために、一丸となって挑戦を続けていきます。株主の皆さまにおかれましては、今後とも一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。







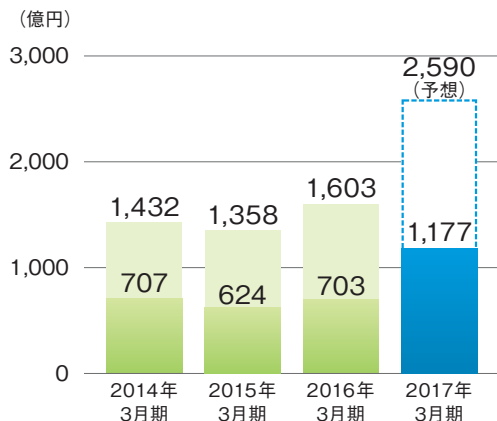
1968年(昭和43年)に中央研究所(現在の水無瀬研究所)の建設を記念して建立された石碑。小野薬品の企業理念がここに刻まれています。

代表取締役社長 相良 暁

売上収益

1,177億円 前年同期比 **67.5%増**

通期 →  
第2四半期累計 →  







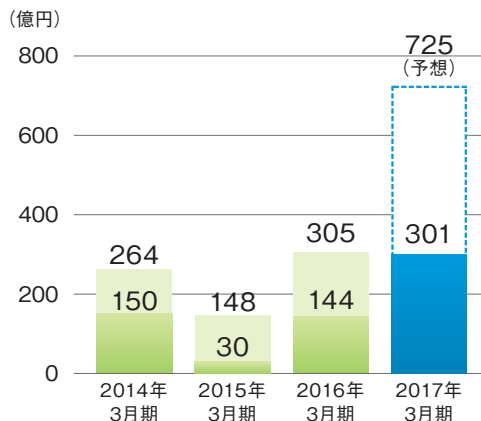
オブジーボの売上拡大と ロイヤルティ収入増により大幅増収

長期収載品の売上は減少しましたが、主要新製品は概ね堅調に推移しました。非小細胞肺癌への適応拡大に伴い「オブジーボ点滴静注」の売上が大幅増となるとともに、ロイヤルティ収入も増加した結果、当第2四半期累計期間の売上収益は前年同期比474億円(67.5%)増の1,177億円となりました。

営業利益

301億円 前年同期比 **109.2%増**

通期 →  
第2四半期累計 →  

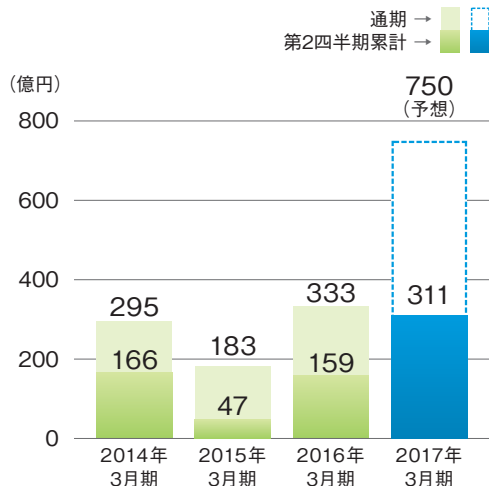


売上原価、販売費及び一般管理費が 増加するも売上収益増により大幅増益

売上収益の増加に伴い売上原価が増加し、オブジーボ関連の研究開発費や営業経費、安全性情報管理に関わる経費も増加しました。また、前年同期の退職給付制度改定に伴う過去勤務費用の影響の反動もあったものの、売上収益の増加により、当第2四半期累計期間の営業利益は前年同期比157億円(109.2%)増の301億円となりました。

税引前四半期利益

311億円 前年同期比 **95.7%増**

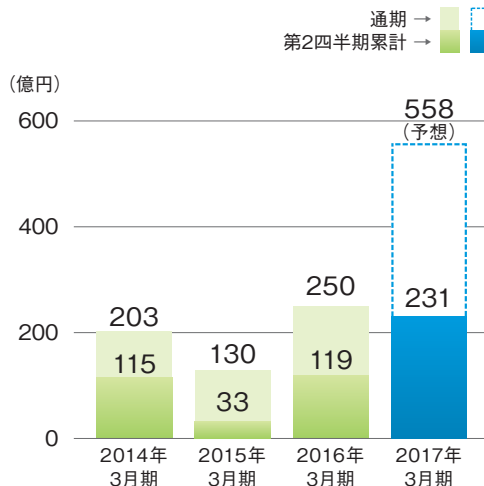


金融収支が前年同期より減少するも 営業増益により、大幅増益

金融収支は前年同期比6億円減の10億円となりましたが、営業利益が大幅に増加したことにより、当第2四半期累計期間の税引前四半期利益は、前年同期比152億円(95.7%)増の311億円となりました。

親会社の所有者に帰属する四半期利益

231億円 前年同期比 **94.7%増**



税引前四半期利益が大きく増加し、 大幅増益

税引前四半期利益の増加に伴い税負担が40億円増加しましたが、当第2四半期累計期間の親会社所有者帰属分の四半期利益は、前年同期比112億円(94.7%)増の231億円となりました。

連結業績ハイライト

財政状態

(単位:百万円)

	前期末 2016年3月31日現在	当第2四半期会計期間末 2016年9月30日現在
流動資産	223,573	218,775
非流動資産	316,877	338,978
資産合計	540,450	557,753
負債合計	64,195	67,205
資本合計	476,255	490,548
負債及び資本合計	540,450	557,753

損益の状況

(単位:百万円)

	前第2四半期累計期間 自2015年4月1日 至2015年9月30日	当第2四半期累計期間 自2016年4月1日 至2016年9月30日
売上収益	70,303	117,726
売上総利益	51,749	85,499
販売費及び一般管理費	△18,212	△29,286
研究開発費	△19,097	△25,323
営業利益	14,404	30,135
税引前四半期利益	15,904	31,127
四半期利益	11,940	23,189
親会社の所有者に帰属する四半期利益	11,873	23,119

連結持分変動計算書(要旨)

(単位:百万円)

	資本金	資本 剰余金	自己 株式	その他の 資本の 構成要素	利益 剰余金	親会社の 所有者に 帰属する持分	非支配 持分	資本 合計
2016年4月1日現在残高	17,358	17,103	△59,358	43,307	452,983	471,393	4,862	476,255
四半期包括利益合計	-	-	-	652	23,119	23,770	69	23,839
所有者との取引額等合計	-	19	△22	△79	△9,461	△9,543	△3	△9,546
2016年9月30日現在残高	17,358	17,122	△59,380	43,879	466,640	485,620	4,928	490,548

▶より詳しい業績の情報は、当社のIRサイトをご覧ください。 http://www.ono.co.jp/jpnw/ir/ir_library.html

小野薬品 IR

検索

キャッシュ・フローの状況

(単位:百万円)

	前第2四半期累計期間 自2015年4月1日 至2015年9月30日	当第2四半期累計期間 自2016年4月1日 至2016年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,733	23,863
投資活動によるキャッシュ・フロー	10,575	△ 28,341
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 9,719	△ 9,746
現金及び現金同等物の増減額	4,589	△ 14,224
現金及び現金同等物に係る為替変動による影響額	△ 37	△ 677
現金及び現金同等物の四半期残高	108,775	95,584

主要経営指標

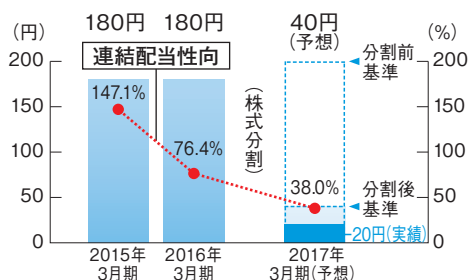
	前期末 2016年3月31日現在	当第2四半期会計期間末 2016年9月30日現在
親会社所有者帰属持分比率 (%)	87.2	87.1
1株当たり親会社所有者帰属持分 (円)	889.38	916.23
	前第2四半期累計期間 自2015年4月1日 至2015年9月30日	当第2四半期累計期間 自2016年4月1日 至2016年9月30日
基本的1株当たり四半期利益 (円)	22.40	43.62

注：当社は、2016年4月1日を効力発生日として普通株式1株につき5株の割合で株式分割を実施しました。

「1株当たり親会社所有者帰属持分」および「基本的1株当たり四半期利益」につきましては、前期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しています。

中間配当金について

〈年間配当実績と当期予想〉



株主の皆さまへの当期の中間配当金につきましては、1株につき2円増配の20円とさせていただきます。なお、当期の期末配当金につきましても、1株につき2円増配の20円とし、年間にお支払いする配当金は、1株につき4円増配の40円を予定しています。

注：当社は、2016年4月1日を効力発生日として普通株式1株につき5株の割合で株式分割を実施しました。増配額につきましては、前期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しています。

主な製品の売上高の状況と見込み

製品名	当第2四半期 売上高(実績) (億円)	対前年同期 増減率	2015年度 売上高(実績) (億円)	2016年度 売上高(見込み) (億円)	対前期 増減率
オプジーボ点滴静注	533	+1,714.0%	212	1,260	+495.7%
グラクティブ錠	148	△7.4%	314	295	△6.1%
オパルモン錠	88	△25.9%	227	175	△22.9%
リカルボン錠	56	△0.7%	113	115	+1.8%
オレンシア皮下注	54	+46.1%	80	115	+43.5%
イメンド／プロイメンド	50	+4.8%	95	100	+5.6%
リバスタッチパッチ	44	+13.3%	78	90	+14.9%
フォーシーガ錠	36	+118.4%	43	85	+98.9%
オノンカプセル	30	△25.6%	90	65	△27.4%
オノアクト点滴静注用	27	△3.4%	57	65	+13.9%
ステープラ錠	24	△7.9%	52	50	△3.2%
オノドライシロップ	18	△25.5%	56	45	△19.7%
フオイバン錠	20	△27.0%	52	40	△22.4%
キネダック錠	16	△29.7%	41	30	△26.6%
カイクロリス点滴静注用	2	(2016年8月発売)	—	20	(2016年8月発売)

多発性骨髄腫治療剤「カイクロリス®点滴静注用」新発売

本年8月に、多発性骨髄腫治療剤「カイクロリス®点滴静注用」を新発売しました。本剤は、細胞内に存在する酵素複合体であるプロテアソームに対して高い選択性を有するプロテアソーム阻害剤です。プロテアソームは細胞の増殖、分化および機能的細胞死を制御しており、このプロテアソームを阻害することで骨髄腫細胞の機能的細胞死を誘導します。多発性骨髄腫は血液がんの一種で、治療法は複数存在しますが、寛解と再発を繰り返しながら進行し、既存の治療が効かなくなる難治性の病状に移行する場合も少なくないことから、新たな治療薬の開発が期待されています。カイクロリスは、多発性骨髄腫の患者さんおよびご家族に貢献できるものと考えています。



通期の見通し(2017年3月期)

売上収益

2,590億円 前期比 **61.6%増**

長期収載品は後発医薬品使用促進策の影響による売上減少が予想されますが、「オプジーボ点滴静注」の売上が大きく増加する見込みであり、また「フォーガ錠」や「オレンシア皮下注」などの主要新製品の売上拡大を見込んでおり、通期の売上収益は、前期比987億円(61.6%)増の2,590億円を予想しています。

営業利益

725億円 前期比 **137.6%増**

売上原価は「オプジーボ点滴静注」の売上増に伴い増加する見込みです。研究開発費は経費の効率的な活用を進めるものの、オプジーボ関連費用が増加する見込みです。また、販売費及び一般管理費もオプジーボ関連の活動経費や安全性情報管理に関わる経費の増加が見込まれることから、通期の営業利益は、前期比420億円(137.6%)増の725億円を予想しています。

税引前当期利益

750億円 前期比 **125.4%増**

低金利が長期化しており、金融収支を前期比3億円減少の25億円と見込んでおり、通期の税引前当期利益は、前期比417億円(125.4%)増の750億円を予想しています。

親会社の所有者に帰属する当期利益

558億円 前期比 **123.4%増**

税引前当期利益の増加に伴い法人税等の税金費用の増加が見込まれます。その結果、通期の親会社所有者帰属分の当期利益は、前期比308億円(123.4%)増の558億円を予想しています。

研究開発活動・開発品の主な進捗状況

研究開発活動

わたしたちは、「真に患者さんのためになる医薬品を開発して社会に貢献する」、これを研究開発理念として、これまで克服されていない病気や、いまだ患者さんの治療満足度が低く、医療ニーズの高い疾患領域に挑戦し、独創的かつ画期的な医薬品の創製に向けて努力を積み重ねています。なかでも、がん治療およびその支持療法の領域は医療現場のニーズが高いことから、当該領域を重要な戦略分野と位置づけ、患者さんの包括的薬物治療への貢献を目指します。

開発品の主な進捗状況

(2016年10月31日現在)

国内	製品名(開発コード)／一般名	予定効能	開発ステージ			
			PI	PII	PIII	申請
	オブジーボ点静注 (ONO-4538)	ホジキンリンパ腫				
	オブジーボ点静注 (ONO-4538)	頭頸部がん				
	ONO-5163／エテルカルセキ塩酸塩	二次性副甲状腺機能亢進症				
	カイプロス点静注用 (ONO-7057)	多発性骨髄腫(用法・用量変更)				
	オブジーボ点静注 (ONO-4538)	胃がん				
	オブジーボ点静注 (ONO-4538)	食道がん				
	オブジーボ点静注 (ONO-4538)	胃食道接合部がん及び食道がん				
	オブジーボ点静注 (ONO-4538)	小細胞肺がん				
	オブジーボ点静注 (ONO-4538)	肝細胞がん				
	オブジーボ点静注 (ONO-4538)	膠芽腫				
	オブジーボ点静注 (ONO-4538)	尿路上皮がん				
	オブジーボ点静注 (ONO-4538)	悪性胸膜中皮腫				
	オレンシア点静注用 (ONO-4164)	若年性特発性関節炎				
	オレンシア点静注用 (ONO-4164)	ループス腎炎				
	オレンシア皮下注 (ONO-4164)	未治療の関節リウマチ				
	カイプロス点静注用 (ONO-7057)	多発性骨髄腫(用法・用量変更)				
	ONO-1162／Ivabradine	慢性心不全				
	ONO-7643／アナモレリン	がん悪液質				
	オノアクト点静注用 (ONO-1101)	心機能低下例における頻脈性不整脈(小児)				
	オノアクト点静注用 (ONO-1101)	心室性不整脈				
	オブジーボ点静注 (ONO-4538)	卵巣がん				
	オブジーボ点静注 (ONO-4538)	固形がん(子宮頸がん、子宮体がん、軟部肉腫)				
	オブジーボ点静注 (ONO-4538)	中枢神経系原発リンパ腫／精巣原発リンパ腫				
	オブジーボ点静注 (ONO-4538)	ウイルス陽性・陰性固形がん				
	ONO-2370／Opicapone	パーキンソン病				
	ONO-5371／メチロシン	褐色細胞腫				
	オブジーボ点静注 (ONO-4538)	胆道がん				

国内	製品名(開発コード)／一般名	予定効能(地域)	開発ステージ			
			PI	PII	PIII	申請
	ONO-4481／Urelumab	固形がん				
	ONO-4482／抗LAG-3抗体	固形がん				
	ONO-7268MX1	肝細胞がん				
	ONO-7268MX2	肝細胞がん				
	ONO-2160／CD	パーキンソン病				
	ONO-4059	B細胞リンパ腫				
	ONO-8577	過活動膀胱				
国外						
	オプジーボ点滴静注(ONO-4538)	非小細胞肺癌(非扁平上皮型)〈台湾〉				
	オプジーボ点滴静注(ONO-4538)	腎細胞がん〈台湾〉				
	オプジーボ点滴静注(ONO-4538)	頭頸部がん〈台湾〉				
	オプジーボ点滴静注(ONO-4538)	ホジキンリンパ腫〈欧州〉				
	オプジーボ点滴静注(ONO-4538)	頭頸部がん〈欧米〉				
	オプジーボ点滴静注(ONO-4538)	尿路上皮がん〈欧米〉				
	オプジーボ点滴静注(ONO-4538)	頭頸部がん〈韓国〉				
	オプジーボ点滴静注(ONO-4538)	膠芽腫〈欧米〉				
	オプジーボ点滴静注(ONO-4538)	小細胞肺癌〈欧米・韓国・台湾〉				
	オプジーボ点滴静注(ONO-4538)	胃がん〈欧米・韓国・台湾〉				
	オプジーボ点滴静注(ONO-4538)	食道がん〈欧米・韓国・台湾〉				
	オプジーボ点滴静注(ONO-4538)	尿路上皮がん〈韓国・台湾〉				
	オプジーボ点滴静注(ONO-4538)	肝細胞がん〈欧米・韓国・台湾〉				
	オプジーボ点滴静注(ONO-4538)	多発性骨髄腫〈欧米〉				
	オプジーボ点滴静注(ONO-4538)	胃食道接合部がん及び食道がん〈欧米・韓国・台湾〉				
	オプジーボ点滴静注(ONO-4538)	悪性胸膜中皮腫〈欧米〉				
	オプジーボ点滴静注(ONO-4538)	びまん性大細胞型B細胞リンパ腫〈欧米〉				
	オプジーボ点滴静注(ONO-4538)	濾胞性リンパ腫〈欧米〉				
	オプジーボ点滴静注(ONO-4538)	中枢神経系原発リンパ腫／精巣原発リンパ腫〈欧米〉				
	オプジーボ点滴静注(ONO-4538)	大腸がん〈欧米〉				
	オプジーボ点滴静注(ONO-4538)	固形がん(トリプルネガティブ乳がん、胃がん、膵臓がん、小細胞肺癌、尿路上皮がん、卵巣がん)〈欧米〉				
	オプジーボ点滴静注(ONO-4538)	ウイルス陽性・陰性固形がん〈欧米・韓国・台湾〉				
	ONO-2952	過敏性腸症候群〈米国〉				
	ONO-4474	変形性関節症〈欧州〉				
	オプジーボ点滴静注(ONO-4538)	血液がん(T細胞リンパ腫、多発性骨髄腫、慢性白血病、他)〈欧米〉				
	オプジーボ点滴静注(ONO-4538)	慢性骨髄性白血病〈欧米〉				
	オプジーボ点滴静注(ONO-4538)	C型肝炎〈欧米〉				
	ONO-4059	B細胞リンパ腫〈欧米〉				
	ONO-8055	低活動膀胱〈欧州〉				
	ONO-4232	急性心不全〈米国〉				

※なお、抗がん剤において、同じ予定効能(がん腫)の場合は、最も進んでいるフェーズ(開発ステージ)を記載しています。

オプジーボ点滴静注の開発状況について

■ 国内における承認取得、承認申請状況

オプジーボ点滴静注は、2014年7月に世界に先駆けて国内で製造販売承認を取得した世界初の抗PD-1抗体です。悪性黒色腫の治療薬として同年9月に上市し、その後2年が経過しました。この間、非小細胞肺癌と腎細胞がんについて効能を追加取得しました。また、現在、血液がんの一種であるホジキンリンパ腫と頭頸部がんでの効能追加を承認申請しており、ホジキンリンパ腫については、年内の承認取得を期待しています。

第69期第2四半期末までに承認取得および承認申請を行っているがん腫（国内）

承認取得（効能・効果）	根治切除不能な悪性黒色腫	2014年7月
	切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌	2015年12月
	根治切除不能又は転移性の腎細胞がん	2016年8月
承認申請（予定効能）	再発又は難治性のホジキンリンパ腫	2016年3月
	再発又は遠隔転移を有する頭頸部がん	2016年7月

■ 他の薬剤との併用療法について

オプジーボは現在、国内で悪性黒色腫、非小細胞肺癌、腎細胞がんについて承認され使用されており、さらに高い効果を期待し、他の薬剤との併用療法の開発にも積極的に取り組んでいます。開発が先行しているものが、抗CTLA-4抗体イピリムマブ（製品名：ヤーボイ）との併用療法です。イピリムマブはオプジーボと同じ免疫チェックポイント阻害剤の一つです。両剤が異なる分子に作用することで、がん細胞に対するT細胞（免疫細胞）の働きをより高める効果が期待できます。現在、国内において、複数のがん腫を対象とした臨床試験を実施中であり、一日でも早くがん患者さんの治療にご使用いただけるよう、今後とも開発を進めていきます。

オプジーボとイピリムマブとの併用療法についての国内臨床試験

がん腫	フェーズ
悪性黒色腫	Ⅱ
腎細胞がん	Ⅲ
非小細胞肺癌	Ⅲ
小細胞肺癌	Ⅲ
頭頸部がん	Ⅲ
胃がん	Ⅲ
悪性胸膜中皮腫	Ⅲ

提携活動

■ セリアド社との提携契約締結

2016年7月に、ベルギーのセリアド社が欧米でがんを対象に開発中のナチュラルキラー細胞受容体NKG2Dを用いた他家CAR-T細胞※NKR-2を、日本・韓国・台湾で独占的に開発・商業化する権利を取得しました。既存のCAR-T細胞が血液がんを対象として開発が進められているのに対し、他家CAR-T細胞NKR-2は、固形がんにも効果が期待できる最新の科学的知見を応用した細胞製品候補です。また、自家NKR-2は患者さん自身の血液から作製し、患者さん本人の治療にしか使用できませんが、今回当社がライセンスを取得した他家NKR-2は、健康成人の血液から作製し、幅広い患者さんの治療に用いることが可能になります。これまでの治療で治癒が期待できなかった患者さんに対する新たな治療オプションになることを期待し、開発を進めていきたいと考えています。

※CAR-T細胞・・・キメラ抗原受容体発現T細胞

■ 国立がん研究センターとの提携契約締結

2016年9月に、国立研究開発法人国立がん研究センターと当社は、双方が有する研究能力を生かし、優れた抗がん剤の創出およびがん免疫療法などにおけるバイオマーカー探索を目指した共同研究を推進するための包括的研究提携契約を締結しました。

また、国立がん研究センターと当社は、がん患者における全身および腫瘍局所の免疫状態の解析に加え、さまざまながん腫について横断的に腫瘍の遺伝子変異・発現や、腫瘍および免疫細胞の代謝状態などを網羅的に解析する大規模な共同研究を開始しました。

会社の概要 (2016年9月30日現在)

■ 会社概要

社名	小野薬品工業株式会社
英文社名	ONO PHARMACEUTICAL CO., LTD.
創業	享保2年(1717年)
設立	昭和22年(1947年)
資本金	17,358,275,607円
事業内容	医療用医薬品を主体とする各種医薬品の研究、開発、製造、仕入および販売
従業員数	3,216名(連結) 2,989名(単体)

■ 主要な事業所

本社	〒541-8564 大阪府中央区久太郎町一丁目8番2号 電話 06-6263-5670 〔 登記簿上の本店所在地 大阪府中央区道修町二丁目1番5号 〕
支店	全国9支店 (その他主要都市に営業所等を設けています)
工場	城東工場(大阪府)、フジヤマ工場(静岡県)
研究所	水無瀬研究所(大阪府)、福井研究所、 筑波研究所(茨城県)
海外子会社	オノ・ファーマ・ユー・エス・イー インク(米国ニュージャージー州) オノ・ファーマ・ユー・ケー・リミテッド(英国ロンドン) 韓国小野薬品工業株式会社(韓国ソウル) 台湾小野薬品工業股份有限公司(台湾台北)

■ 役員

代表取締役 取締役社長	相良 暁
取締役 副社長執行役員	栗田 浩
取締役 専務執行役員	佐野 敬
取締役 常務執行役員	川瀬 和一十
取締役 常務執行役員	小野 功雄
社外取締役	加登 豊
社外取締役	栗原 潤
常勤監査役	西村 勝義
常勤監査役	藤吉 信治
社外監査役	作花 弘美
社外監査役	菱山 泰男

株式の状況 (2016年9月30日現在)

■ 株式数

- 発行可能株式総数 1,500,000,000株
- 発行済株式の総数 589,237,500株
(自己株式59,156,349株を含む)

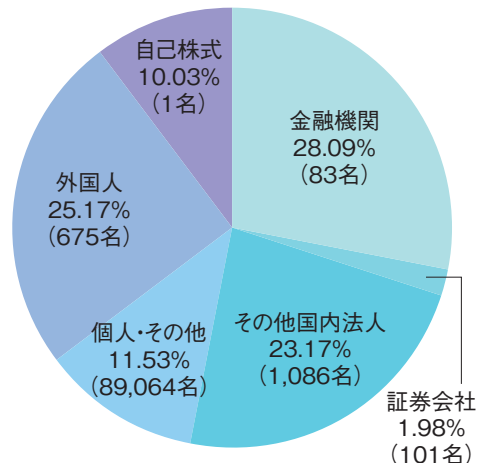
■ 株主数 91,010名

■ 大株主

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	29,429	5.55
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	27,968	5.27
明治安田生命保険相互会社	18,594	3.50
公益財団法人 小野奨学会	16,428	3.09
株式会社 鶴鳴荘	16,122	3.04
ジェーピー モルガン チェース バンク 385147	14,610	2.75
株式会社三菱東京UFJ銀行	8,640	1.63
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	8,606	1.62
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー	7,346	1.38
ザバンク オブ ニューヨーク メロン エスエー エヌビイ 10	6,867	1.29

- (注) 1. 当社は自己株式59,156千株を保有していますが、上記大株主には記載していません。
2. 持株比率は、自己株式(59,156千株)を控除して算出しています。

■ 所有者別の株式分布状況

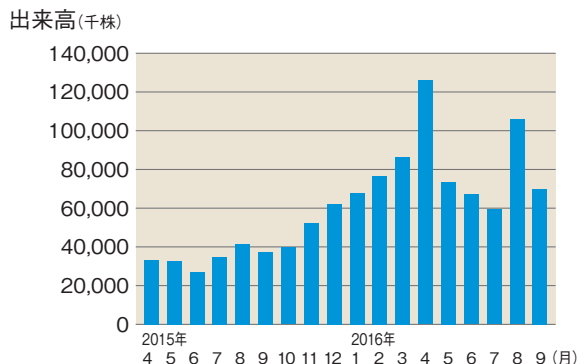
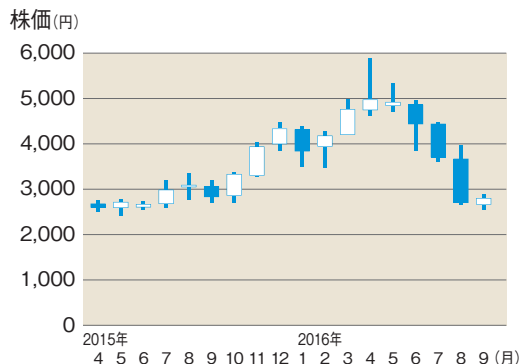


(注) 比率は、小数点第3位以下を切り捨てているため、各項目の比率を加算しても100%になりません。

■ その他株式に関する重要な事項

当社は、2016年4月1日を効力発生日として、普通株式1株につき5株の割合で株式分割を実施しました。

■ 株価および株式売買高の推移



- (注) 当社は、2016年4月1日を効力発生日として普通株式1株につき5株の割合で株式分割を実施しました。
「株価および株式売買高の推移」につきましては、前期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しています。

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	定時株主総会・期末配当：3月31日 中間配当：9月30日
公告の方法	電子公告により行います。 ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。 公告を掲載するホームページのアドレス http://www.ono.co.jp/
上場証券取引所	東京証券取引所（証券コード4528）
単元株式数	100株
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人事務取扱場所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
各種お問合せ先	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 電話 0120-782-031（フリーダイヤル）
同取次窓口	三井住友信託銀行株式会社 全国本支店

- 住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について
株主様の口座のある証券会社にお申出ください。
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。
- 未払配当金のお支払いについて
株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

ホームページアドレス

<http://www.ono.co.jp/>